

「避難大事」読み聞かせ

被災経験基に絵本作成

相馬総合高 松本さん



手作りの絵本を読み、避難の大切さを伝える松本さん

▲11月22日 福島民友新聞掲載

相馬総合高3年の松本心花さん(18)は、東日本大震災の経験を生かして「防災絵本」を手作りした。相馬市の保育園で絵本を読み聞かせた松本さんは「一人でも多くの子どもたちに、災害から身を守る方法を知ってほしい」と語った。絵本は、17歳の主人公「りようへい」が、4歳で経験した地震と津波を振り返るストーリー。母と買い物をしていた時に地震に遭遇し、高台に逃げて難を避けることができたことを物語る。モチーフは4歳だった松本さんの震災の体験。市内と「防災」を選び、絵本を

商業施設で母親と大きな地震に襲われた。屋外に避難し、揺れが収まるのを待った。震災で親族は無事だったが、絵本には主人公の震災の経験を職員などから聞き取ったみなと保育園(相馬市)。14日には年長児約30人を前に、ゆっくりと絵本を読み「押さない」「駆けない」など避難する際の基本も伝えた。「少し緊張したが、みんなしっかりと聞いてくれてうれしかった。絵本を作った良かった」と松本さんは笑顔を見せた。高校卒業後は仙台市の専門学校に進み、保育士と幼稚園教諭の資格取得を目指すという。

松本さんの「防災絵本」のストーリーは、どのような体験がもとになっていますか？

松本さんが読み聞かせで伝えたのは、どのようなことですか？

松本さんの絵本作成や読み聞かせについて、あなたはどのようなことを感じましたか？